

在外日本古美術品保存修復協力事業（ 修 04-06-1/5 ）

目 的

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。平成3年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成9年度から工芸品など欧米の修復技術で修復の困難な分野にも協力対象を拡げた。

本事業では立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。また、修理内容の検討、修理作品の写真記録の作成及び整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

この修復協力事業が契機となって、国内外で所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、欧米諸国では日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

概 要

平成18年度は、9館11点の作品を修復した（うち1点が17年度からの継続、2点が海外での修復（印））。
<絵画>

- (1)「源平合戦図屏風」 6曲1双（2点） オーストリア応用美術館
- (2)「洛中洛外図屏風」 6曲1双（2点） ロイヤル・オンタリオ美術館
- (3)「阿弥陀三尊来迎図」 1面 チューリッヒ・リートベルグ美術館（2年計画の1年目）
- (4)「保元物語図屏風」 6曲1隻 ナーブルステク博物館
- (5)「明皇蝶幸図屏風」 4曲1隻 プラハ国立美術館
- (6)「歌川豊春筆見立反魂香図」 1幅 プラハ国立美術館

<工芸品>

- (1)「山水人物蒔絵筆筥」 1基 スペイン国立装飾美術館（2年計画の1年目）
- (2)「花卉螺鈿ライティングビューロー」 1基 クラコウ国立美術館（2年計画の1年目）
- (3)「楼閣山水螺鈿筆筥」 1基 キヨソネ東洋美術館（2年計画の1年目）
- (4)「花樹鳥獣蒔絵螺鈿洋櫃」 1基 ケルン東洋美術館（3年計画の1年目）
- (5)「雷文鱗紋螺鈿提子」 1合 ケルン東洋美術館

平成18年度、絵画の事前調査ではビクトリア美術館10点、バンクーバー博物館1点、ローマ東洋美術館5点、ベネチア東洋美術館3点の調査を行った。また、工芸品はフレンツ・ホップ東洋美術館2点、ブダペスト工芸美術館1点、シェーンブルン宮殿2点、ウィーン国立民族学博物館2点、美術史博物館（ウィーン）1点、ウィーン国立工芸博物館3点の調査を行った。また、平成17年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて『在外日本古美術品保存修復協力事業』の報告書を刊行した。なお本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団より助成を受けた。

調査・研究報告書等刊行数 1件：『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成18年度（絵画／工芸品）』 250p 東京文化財研究所 07.3

研究組織

- 加藤寛、中山俊介、加藤雅人（以上、修復技術部） 佐野智典（管理部） 勝木言一郎、江村知子、城野誠治（以上、企画情報部） 中野照男、津田徹英、塩谷純、綿田稔（以上、美術部） 青木繁夫、稲葉信子（以上、文化遺産国際協力センター）